



もう一つの幻。約100年ぶりに復活。



須佐之男命厄神退治之図(推定復元・部分)

失われた幻の大絵馬「須佐之男命厄神退治之図」^{すさのおのみことやくじんたいじのず}を推定復元し、すみだ北斎美術館に常設展示します。

関東大震災で焼失してしまった、北斎晩年最大級の傑作といわれた大絵馬「須佐之男命厄神退治之図」。たった一枚残されたモノクロ写真からの推定復元です。



報道関係の方の
お問い合わせ先

すみだ北斎美術館 広報担当 Tel: 03-6658-8991 Fax: 03-6658-8992
E-mail: hm-pr@hokusai-museum.jp



すみだ北斎美術館



伝統技術と最新技術のコラボレーションで幻の大絵馬「須佐之男命 厄神退治之図」が待望の大復活をとげ、現代によみがえりました。

この幻の大絵馬は、2016年11月22日に開館するすみだ北斎美術館に常設展示されます。

もうひとつの「100年ぶり」～焼失した北斎晩年最大級の傑作を推定復元

すみだ北斎美術館の開館記念として約100年ぶりに再発見された「隅田川 両岸 景色図巻」のお披露目とともに、もうひとつの「100年ぶり」が初公開されます。

すみだで生まれ育った北斎は、区内で多くの作品を描きました。牛御前と呼ばれた現在の牛嶋神社に奉納された絵馬もその一つです。弘化2(1845)年、北斎が86歳の時に描いた肉筆画で、須佐之男命の前にさまざまな厄神がひざまずき、今後悪さをしないように証文を取られているところが描かれています。幅9尺2寸×縦4尺2寸(約2m76cm×縦1m26cm)で、北斎晩年最大級の傑作でしたが、大正12(1923)年の関東大震災で神社とともに焼失しました。



残された唯一の手掛かり～モノクロ写真

その姿を伺い知ることは不可能となってしまったかに思えた「須佐之男命 厄神退治之図」でしたが、幸運なことに、明治43(1910)年刊の『国華』240号に白黒コロタイププリントの画像が掲載されました。また、この絵馬を模写した北斎の門人などの絵画や実際に見た人が記録した史料も残されていました。そこで墨田区では、この失われた絵馬の復元に取り組むべく、平成7(1995)年、調査を開始しました。

しかし、翌年に出された報告書によれば、構図の復元は写真からトレースしてできるものの、色彩の復元は、想像的に再現はできても、オリジナルの色とかけ離れてしまう恐れがあり、経年変化を踏まえた白黒ベースでの復元を提案する、というものでした。江戸時代にこの絵馬を見た人の記録には色彩の具体的な手掛かりとなるものは少なく、当時、これ以上の復元は不可能だったのです。この時は、写真を原寸大に拡大した写真パネルが作られ、調査は終了しました。

つながる
墨田区報道関係の方の
お問い合わせ先すみだ北斎美術館 広報担当 Tel: 03-6658-8991 Fax: 03-6658-8992
E-mail: hm-pr@hokusai-museum.jp

すみだ北斎美術館



新たな挑戦～叡智の結集

第1回目の調査から約20年を経て、平成27(2015)年、区は再び調査に着手しました。依然としてこの絵馬の色彩について触れた史料は確認できませんでしたが、今回は白黒写真や絵具に関する知識を持つさまざまな分野の専門家のご協力を得て、色彩も含めた復元を目指しました。『国華』掲載当時の撮影技法の調査、北斎が晩年に描いた肉筆作品の類例調査など、専門家の叡智を結集し、北斎が着色した絵馬の姿を推定復元する作業をすすめてきました。

そして平成28(2016)年11月22日、約100年ぶりに「須佐之男命厄神退治之図」は、その姿を現します。90歳近い北斎がこれほどの大作を地元の神社に奉納するために描いたと思うと、北斎と“すみだ”という地の強いつながりが感じられます。鮮やかによみがえった「須佐之男命厄神退治之図」をご自身の目で見て、“すみだ”の地で生きた北斎の作画に対する熱意に思いをはせてみませんか。



画像提供: NHK



画像提供: 凸版印刷株式会社

【製作概要】

総製作期間: 約1年2か月(2015年8月～2016年10月)

製作協力: 凸版印刷株式会社

製作延べ人数: 約20人

監修(彩色): 一般社団法人 天野山文化遺産研究所 代表理事 山内章氏

監修(再現撮影): 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 保存科学研究センター 保存環境研究室長 吉田直人氏

監修(美術史): 十文字学園女子大学 人間生活学部 文芸文化学科 准教授 樋口一貴氏

つながる
墨田区報道関係の方の
お問い合わせ先すみだ北斎美術館 広報担当 Tel: 03-6658-8991 Fax: 03-6658-8992
E-mail: hm-pr@hokusai-museum.jp

すみだ北斎美術館



【特集番組の放送】

NHK 総合テレビにて、この絵馬の復元を追ったドキュメンタリー番組が放送されます。

- ・放送局 NHK 総合テレビ
- ・放送日 2016年11月23日(水・祝)
- ・放送時間 午後10時00分～午後10時49分
- ・番組名 **ロスト北斎 The Lost Hokusai 幻の巨大絵に挑む男たち**
- ・番組内容 日本が世界に誇る浮世絵師・葛飾北斎。最晩年に描いた「幻の傑作」を蘇らせる画期的なプロジェクトが進行中だ。作品は幅3メートルもある極彩色の巨大絵だったが、関東大震災で焼失。残されているのは明治時代に撮影された白黒写真だけだ。その画像を最先端技術を駆使して分析、さらに伝統的な修復技術の力を借りて復元する過程を追う。プロジェクトを通じ、これまで知られてこなかった北斎の驚くべき秘密が明らかになっていく。

【開館事前情報】

■寄付目標額5億円を達成しました

平成26年に開始した「墨田区北斎基金」寄付キャンペーンは、全国の皆さまの多大なるご支援により、すみだ北斎美術館の開館(平成28年11月22日)までの目標額、5億円を達成いたしました。

区では、歴史と文化に恵まれた地域の特性を活かした文化施策の展開を図るため、引き続きふるさと納税を活用した寄付を募集します。

そして、「暮らし続けたいまち」、「働き続けたいまち」、「訪れたいまち」の実現に向け、区民の幅広い文化芸術活動の支援に取り組んでまいります。

寄付金額:502,233,330 円

寄付件数:5,026 件

※平成28年10月20日現在

■開館記念展が「東京2020 参画プログラム」として認証されました

すみだ北斎美術館の開館記念展「北斎の帰還—幻の絵巻と名品コレクション—」が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成やレガシー創出に資すると認められ、正式に「東京2020 参画プログラム」のアクションプログラムとして認証されました。

東京2020大会の開催に向け、すみだ北斎美術館が日本文化の再認識と継承・発展の場となるよう、取り組んでまいります。

寄付キャンペーン及び「東京2020 参画プログラム」についてのお問い合わせ先

墨田区区民活動推進部文化振興課北斎美術館開設担当

Tel:03-5608-6115 Fax:03-5608-6440



報道関係の方の
お問い合わせ先

すみだ北斎美術館 広報担当 Tel: 03-6658-8991 Fax: 03-6658-8992
E-mail: hm-pr@hokusai-museum.jp



すみだ北斎美術館



■開館記念展前売券

開館記念展「北斎の帰還—幻の絵巻と名品コレクション—」の前売券(個人)を、10月24日から販売しています。

□販売価格

一般:1,200円、高校生・大学生:900円、65歳以上:900円、中学生:400円、
プライオリティ・ゲスト(障がい者):400円

※前売券は定価販売です。割引券ではありません。

※一般の方以外は、入館の際に身分証のご提示をお願いする場合があります。

※小学生以下は、無料で入場いただけます。

※団体の各券種においては、前売券の販売予定はございません。

※一年間常設展・企画展を何度でもご覧いただける年間パスポート(販売予定価格:3,000円)は開館後すみだ北斎美術館にて販売を予定しています。

□販売期間

平成28年10月24日(月)～平成29年1月15日(日)

※無くなり次第、販売終了となります。

□販売場所(販売開始時間)

第一ホテル両国(午前9:00)、東武ホテルレバント東京(午前9:00)、吾妻橋観光案内所(午前10:00)、両国観光案内所(午前10:00)※月曜定休・月曜が祝日の場合は翌火曜が休み、すみだまち処(午前10:00)

□販売枚数:各販売場所600枚限定



つながる
墨田区

報道関係の方の
お問い合わせ先

すみだ北斎美術館 広報担当 Tel: 03-6658-8991 Fax: 03-6658-8992
E-mail: hm-pr@hokusai-museum.jp



すみだ北斎美術館